

## ■ ヒバクシャの願いが形に・・・核兵器禁止条約発効！ ■

### ■ 核兵器禁止条約発効を記念して

2021年1月22日(金)ヒロシマ・ナガサキの被爆者の悲願であった「核兵器禁止条約」が発効されました。核兵器禁止条約は、核兵器の使用や保有を違法化する初めての国際条約です。全国各地で宣伝等が行われ、多くの人が条約発効を祝いました。

1月23日(土)青森県民生協コスモス館にて、発効を記念した広島・長崎の原爆被害に関するパネル展示会を、青森県原水爆禁止協議会と共同で開催しました。当日お買い物に来ていた方を中心に、103名が来場しました。会場では「核兵器禁止条約に唯一の戦争被爆国日本の参加を求める署名」の呼びかけを行い、53筆の署名が寄せられました。

来場された方の中には、原爆によって亡くなった方のパネルを見て涙ぐむ方もいました。お子さんとお話するお父さん、「学校でも習ったよ」と真剣に解説を読む小学生、「中学生の時原爆の歌を合唱し、当時の事を学んだので立ち寄りました」という高校生の参加もありました。



原爆被害者の会田中副会長

### ■ ヒバクシャ国際署名に県民の10人に1人 11万6,403人にご協力いただきました

2016年9人の被爆者の呼びかけにより始まった「ヒバクシャ国際署名」。同年11月、ヒバクシャの会からの呼びかけで青森県連絡会が結成され、青森県生協連は事務局を担ってきました。昨年12月末で全国で1370万人、県内では県民の10人に1人に相当する116,403人。全国の生協では約300万人、県内生協は65,984人の署名にご協力いただきました。



生協店舗での署名活動を継続

### ■ 核兵器禁止条約に日本の参加を求める 意見書提出に関する請願採択は14市町村

連絡会として県内全自治体への働きかけを進めてきました。

青森市、十和田市、大間町、五戸町、三戸町、七戸町、外ヶ浜町、東北町、南部町、平内町、野辺地町、佐井村、西目屋村、蓬田村

県内の生協ではこれからも、被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた取り組みをすすめていきます。



青森県連絡会事務局メンバー

青森県生協連は様々な活動を県内で広げています。ホームページでは最新の活動報告などをアップロードしていますので、QRコードからぜひご覧ください。

**青森県生活協同組合連合会** 青森県青森市柳川2-4-22

TEL 017-766-1521 FAX 017-766-3136



## ■ ~コロナ禍での生協の暮らしサポート~ 大学と生協でコロナ禍の学生支援 100円夕食でおなかも心も満足に ■

新型コロナウイルスの影響で、弘前大学は昨年4月から全面的にオンライン授業になりました。大学側が学生に生活状況についてアンケートを行ったところ、アルバイトが減り、親の仕送りも含め経済的に厳しいことが分かりました。また、外出が難しいため引きこもりがちで、食事のバランスが悪化し、コミュニケーション不足からの不安傾向も見られました。

これらの課題の解決策として考えられたのが100円夕食です。100円夕食は夕食代約450円のうち、350円ほどを大学が負担します。学生は経済的なサポートを受けられると同時に崩れた食事のバランスも改善でき、食事をしに大学に来ることで友人たちとコミュニケーションも取ることができます。

学食を運営する弘前大学生協は以前100円朝食を提供していた経験も踏まえ、積極的に応援することとしました。昨年6月5日からスタートし、当初は1日200食限定の予定でしたが、好評のため300食の提供となりました。

大学に入学して日の浅い1年生の友達づくりのきっかけにもなり、学生の精神的なケアとサポートにもつながっています。生協と大学が連携して、安心できる大学生活を応援することができました。



楽しくおいしい100円夕食に満面の笑顔！



1年生専用スペースで友達づくりのきっかけに

### 一年生からの声

入学したてで、オンライン授業の課題を話し合える友達がほとんどいませんでした。食堂に1年生専用コーナーが設けられたのを知り、1人でも行きやすいと思い、学食に通い始めました。自分と同じように1人で来ている1年生もいて、この境遇は自分だけじゃないと思い、安心感につながりました。



## ～コロナ禍で守る命と健康～

### 津軽保健生協の新型コロナ対応



PCR検査のドライブスルー



弘前保健所管内で初めて新型コロナの感染者が発生して以降、健生病院のPCR検体採取100件以上実施の取り組みが新聞報道等で紹介されることもありましたが、実は100件以上の検体採取を実施する体制を作ったのは要請に応じたものではなく、自発的に構築したものです。2020年10月12日に初めてコロナ感染が発表され、その後すぐにPCR検査の陽性率が非常に高い状況が生まれ、続々と陽性者や濃厚接触者が発生しました。検査対象者がどれほどいるのか不明でしたが、PCR検査をきちんとやらないと陽性者を捉えることができないだろうと思い、独自で体制を強化。1日100件実施可能と申し出たら本当に100件以上が割りふられたというのが実情です。新型コロナ受け入れを担う専任の看護チームの立ち上げ、ドライブスルーでのPCR検査など、様々な対策を進めました。

新型コロナだけでなく、それ以外の一般診療、救急なども大変ではあります。職員の努力や、行政との連携などで対応しています。

### お家の中でも体を動かして健康づくり

新型コロナウイルスが流行し、外に出たり運動したりする機会が減った方が多いのではないのでしょうか。運動不足は「フレイル」の原因になるうえ、様々な病気を引き起こす可能性があります。

青森保健生協ではコロナ禍でも組合員の健康づくりをサポートするための体操動画を作成し、ホームページやYouTubeでの配信、DVDとして配布を行っています。こんな時だからこそ、お家で体を動かしましょう！

QRコードからぜひご覧ください！



#### 音楽にあわせてけんこう音頭♪



#### セラバンド体操で筋力アップ♪



5日分の食品支援セットのイメージ

### 新型コロナ自宅療養者へ食品をお届け

青森県からの要請を受けて、コープあおもり・青森県民生協の連携のもとに、新型コロナウイルス感染症の無症状者等への「自宅療養における生活支援」に協力しています。

各保健所からの連絡を受け、CO・OP商品のドライ品を中心とした5日分の食品セットを配送し、外出せずに療養に専念できるよう支援するものです。青森県及び青森市・八戸市と契約を取り交わし、現状ある青森県民生協の店舗事業とコープあおもりの共同購入の仕組みを連結させることで、県内40市町村をカバーするスキームをつくることができました。

## 地域の「困った！」を支える有償ボランティア 「コープくらしのたすけあいの会」を広げます

子育てに忙しい家庭や高齢者家庭の家事援助など、ちょっと困ったとき、「おたがいさま」の気持ちで助けあえたら…そんな願いを形にしたのが、有償ボランティア「コープくらしのたすけあいの会」の活動です。1998年県内生協が協同して、思いやりのある豊かな地域づくりをすすめることをめざして活動をスタートしました。

利用会員(援助を必要とする人)、活動会員(援助する人)、賛助会員(財政的に支援する人)が力を合わせて活動を支え、22年間の活動累計は、35,598件、およそ65,000時間になりました。青森、弘前・黒石、八戸・三沢、むつの4地域で活動中です。

2021年度より県内の困りごとを抱える方への支援を広げるため、利用会員と賛助会員は生協の組合員でなくても登録できるよう会則を改定しました。また、賛助会員は、個人でも団体でもご登録いただけます。そのほか会の活動を財政的に支える協力金のしくみも作りしました。

高齢になっても、障害があっても、誰もが安心して住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、できる人ができることで支え合う社会をめざして、更に活動を広げていきます。



#### 雪囲いをする活動会員

最初、雪囲いはできませんでしたが、他の活動員と一緒に作業をするうちに自分もできるようになっていました

#### (主な活動)

- 掃除
- 買い物
- 食事づくり
- 外出の付き添い
- 話し相手
- 草取り
- など



#### お掃除をする活動会員

お掃除の活動に入っています。汚れがひどい時には、「綺麗になると気持ちがいいね」とってお掃除しています

コープくらしのたすけあいの会 本部事務局  
青森県生協連事務所内(青森市柳川2-4-22)

☎ 0120-30-1521

● 受付時間: 月曜日～金曜日 午前10時～午後5時まで  
※ 土日、祝日、お盆(8/13～16)、年末年始(12/28～1/4)を除きます

